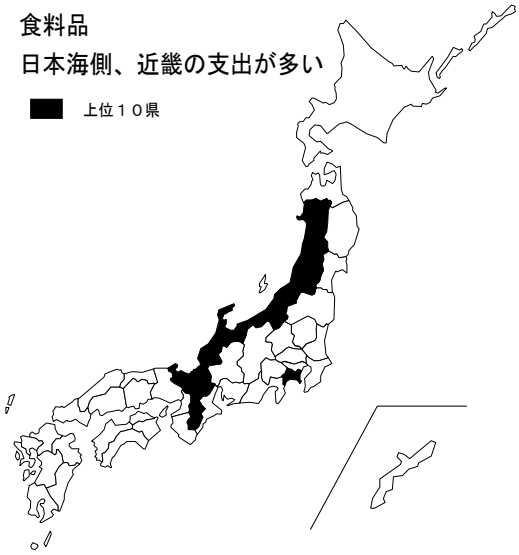
第６章　各費目の特徴

６．１　食料品

６．１．１　概要

図表６．１－１　都道府県分布（食料品）



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

食料品は、全国平均が 71,033 円に対して、福井県が 80,803 円と最も多く、次いで石川県(78,976 円)、秋田県(78,241 円)、滋賀県(77,837 円)、山形県(77,776 円)の順となっている。地域別では、北陸や東北日本海側､近畿を中心に支出が集中している。

福井県は牛乳(2,662 円)、油揚げ･がんもどき(568 円)、菓子類(8,001 円)、おにぎり(344 円)で全国 1 位であるほか、米(7,186 円、全国 2 位)、生鮮魚介(7,347 円、全国 4 位)、調理食品(8,772 円、全国 2 位)の支出が多い。

福井県は、平成 12 年国勢調査による女性労働参加率が 54.0％と全国 1 位であり、共働きが一般的であることから、調理食品や菓子類など手間がかからない食品への支出が多くなったものと考えられる。

また、歴史的にみると福井県は江戸時代に蝦夷や津軽からの海産物などを京都や大阪に運ぶ北前船の中継地として発展した。日本海を廻る北前船の荷物は敦賀や小浜で下ろされ、いわゆる「鰊街道」を通って京都や大阪に運ばれた。このように福井県は古くから海産物や米などが豊富に手に入ったことから、以前より「海産物」や「米」を中心とした食生活が形成されていたことが背景にあるかもしれない。

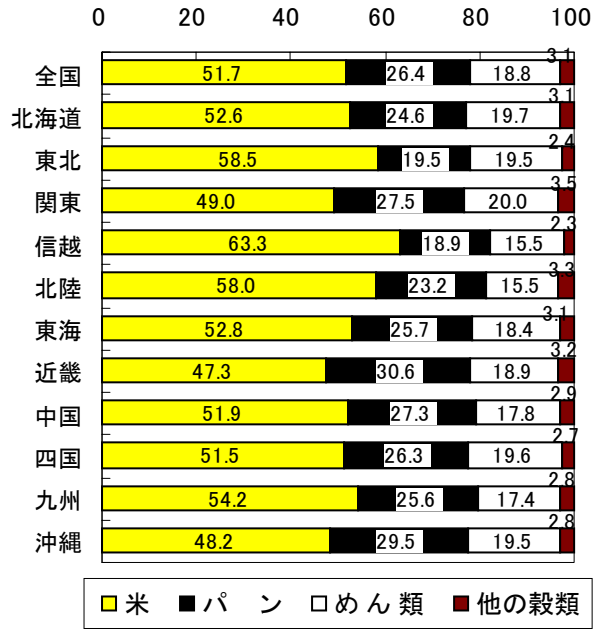
食料品の地域特性を食品別にみると、食文化の地域分布が把握できる。以下では食品毎に地域の特徴を把握する。

6．1．2　主食

(1)米…日本海側地域

米は、新潟県(8,156 円)の支出が最も多く、次いで福井県(7,186 円)、福島県(6,680 円)、山形県(6,354 円)、島根県(6,008 円)の順となっている。全般的に、日本海側を中心とした地域に集中している。新潟県は、米の収穫量が全国１位であるなど米どころとして有名である。このように、稲作の盛んな日本海側の地域において米が食されている。

図表6．１－２　主食支出シェア



(出所)総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

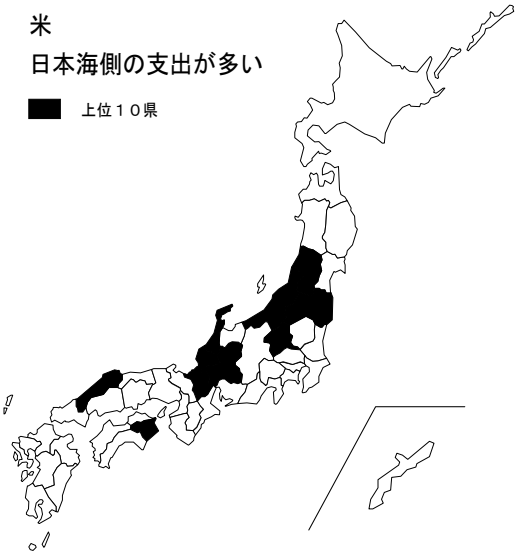
(2)パン…近畿、山陽

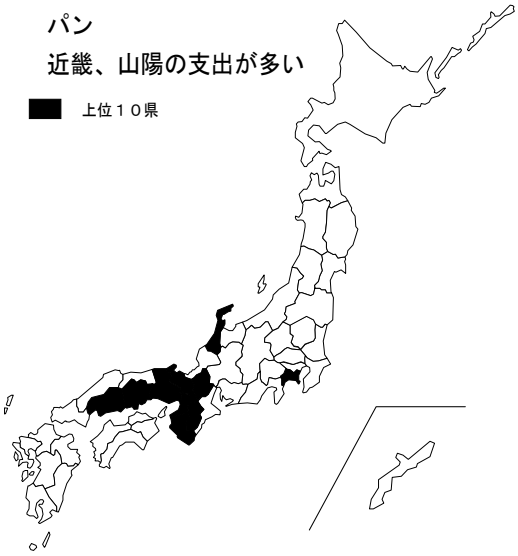
パンは、和歌山県(2,960 円)の支出が最も多く、次いで兵庫県(2,871 円)、奈良県(2,789 円)、大阪府(2,759 円)、石川県(2,707 円)の順となっている。パンの支出は近畿全般に分布しているほか、岡山県や広島県など瀬戸内でもパンの支出が多い。パンの普及は、江戸時代末期に横浜、神戸が開港し、居留地の外国人のためにパンが作られたことに始まる。明治時代以降、洋食文化は近畿を中心に広まった結果、主食も他地域に比べて、パンの割合が高くなったものと考えられる。

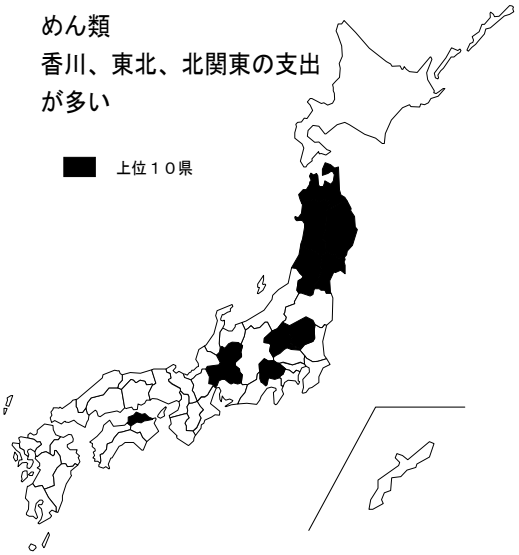
(3)めん…香川県、北関東、東北

めん類は香川県(2,196 円)の支出が最も多く、次いで群馬県(1,917 円)、栃木県(1,858 円)、秋田県(1,829 円)、宮城県(1,826 円)の順となっている。香川県は讃岐うどんの本場として有名である。香川県のうどん志向は、二毛作が盛んで良質な小麦の生産地であったこと、小麦粉を練るのに不可欠な塩の一大産地であったという、風土と歴史がその背景にあると考えられている。また、群馬県も小麦の生産量が全国 2 位であることから、お切り込みうどんや桐生うどんなど様々なうどんの産地がある。全般的に香川県を除いては北関東、東北など東日本の各地域にめん文化が発達している。東日本ではうどん（お切り込みうどん、稲庭うどん）、そば（津軽そば、わんこそば）、ラーメン（喜多方ラーメン、佐野ラーメン）など多種多様なめんの産地があること、冬の寒さが厳しいことなどから温かいめん類が好まれている理由であろう。

図表6．1－3　都道府県分布（主食）







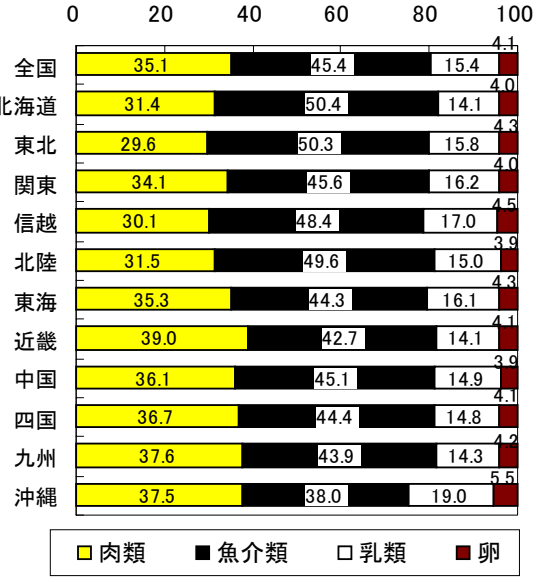
（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

6．1．3 たんぱく源

（1）魚介類…東北、北陸

魚介類は秋田県(13,414 円)の支出が最も多く、次いで富山県(12,178 円)、石川県(12,031 円)、福井県(11,518 円)、岩手県(11,470 円)の順となっている。全般的に東北、北陸に集中しているが、それ以外の地域では京都府や和歌山県の支出が多い。東北、北陸の魚介類の支出が多い理由は、この地域が寒流と暖流が交わる豊かな漁場であること、気温が低いため鮮度の維持が容易であることなどの地理的条件が背景にあると推測される。一方で、かまぼこなど魚肉･錬製品は愛媛県(1,058 円)、島根県(1,003 円)、長崎県(949 円)など西日本を中心に分布している。

図表6．1－4 たんぱく源支出シェア



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

（2）肉類…近畿

肉類は、和歌山県(10,424 円)の支出が最も多く、次いで奈良県(10,216 円)、滋賀県(9,716 円)、京都府(9,522 円)、兵庫県(9,330 円)と近畿圏に集中している。また、徳島県、広島県、岡山県などの西日本全体の支出も多い。これは、西日本全体で洋食文化が広まっていることに加えて、特に近畿では高価な牛肉が好まれることが、その要因と考えられる。ただし、ハム･ソーセージは岐阜県(1,205 円)、神奈川県(1,141 円)を代表として東海、首都圏なども含めた都市部の支出が多い。

（3）牛乳･乳製品…東北太平洋側、首都圏、中部

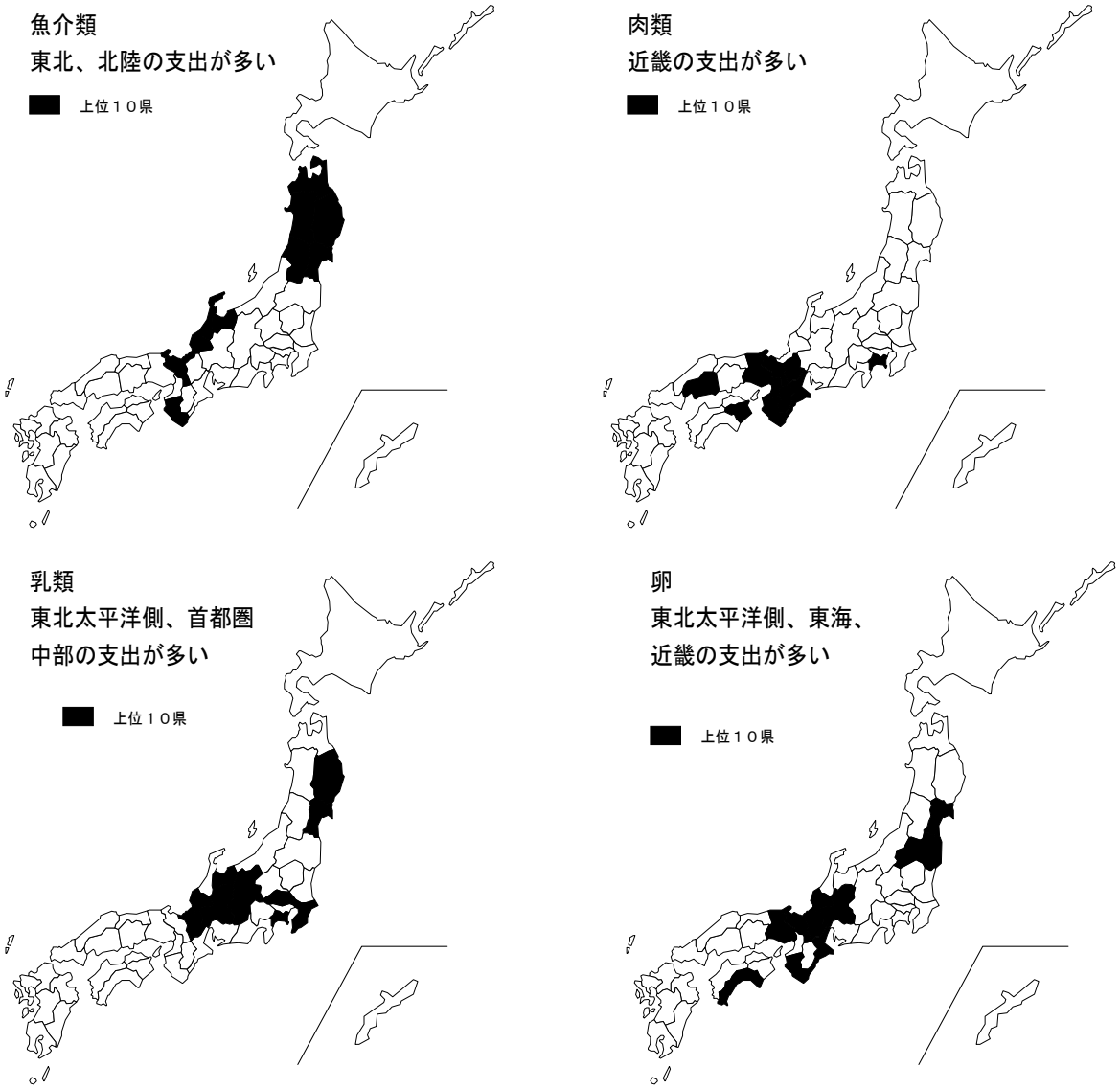
牛乳･乳製品は、宮城県(3,818 円)の支出が最も多く、次いで滋賀県(3,733 円)、岩手県(3,697 円)、埼玉県(3,695 円)、福井県(3,688 円)の順となり、東北太平洋側、首都圏、中部に集中している。全体の約 3 分の 2 を占める牛乳は福井県(2,662 円)、滋賀県(2,638 円)、鳥取県(2,601 円)、宮城県(2,582 円)などそれほど地域の特徴がみられる訳ではない。

乳製品は、ヨーグルトは埼玉県(719 円)が、バター･チーズは神奈川県(448 円)がそれぞれ全国第 1 位であり、乳製品は東日本を中心に分布している。

（4）卵…東海、近畿

卵は、宮城県(1,107 円)の支出が最も多く、次いで滋賀県(1,075 円)、三重県(1,027 円)、兵庫県(1,023 円)、京都府(1,020 円)と、主に東海、近畿に分布している。乳類と同様、東北太平洋側の地域の支出も目立っている。

図表6．1－5　都道府県分布（たんぱく源）



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

６．１．４ 野菜・果物

(1)野菜類(野菜・海藻・豆類)…北陸、東北、首都圏

野菜類は、山形県(13,532 円)の支出が最も多く、次いで福井県(12,368 円)、新潟県(12,225 円)、京都府(12,186 円)、東京都(12,142 円)の順となっている。地域別では北陸、東北、首都圏の支出額が多い。全体的に東日本、特に東北に集中しているが、東北は後述するように塩分摂取量が多く、バランスを取るために、カリウムや糖などを含む野菜を大量に必要とするという背景がある。京都府は、加茂なす、聖護院だいこんなど京野菜や豆腐、湯葉など大豆食品の料理が盛んであることを反映している。

野菜類の約 7 割を占める生鮮野菜は、山形県(9,562 円)の支出が最も多く、次いで新潟県(8,773 円)、東京都(8,548 円)の順となっている。

豆類は、鹿児島県(144 円)が全国 1 位となるなど西日本を中心に分布している。また、干しのりは滋賀県(296 円)が、わかめ・こんぶは富山県(294 円)がそれぞれ全国 1 位である。

大豆加工品については、豆腐が上位順に岩手県(1,008 円)、佐賀県(998 円)、福井県(968 円)、島根県(963 円)、山形県(963 円)となっている。ただし特定の地域に支出がかたよっていない。豆腐は全国的に普及しており、料理法も多様なためである。

納豆は福島県(469 円)を筆頭に、宮城県(456 円)、栃木県(455 円)など東北・北関東に支出が分布している。

油揚げ・がんもどきは福井県(568 円)を筆頭に、石川県(432 円)、京都府(336 円)など北陸・近畿に支出が分布している

野菜の漬物は京都府(1,085 円)の支出が最も多い以外は、埼玉県(1,007 円)、東京都(999 円)など主に関東圏に集中している。逆に地方では各家庭で漬物を漬けることが多いため、漬物の支出はそれほど多くない。

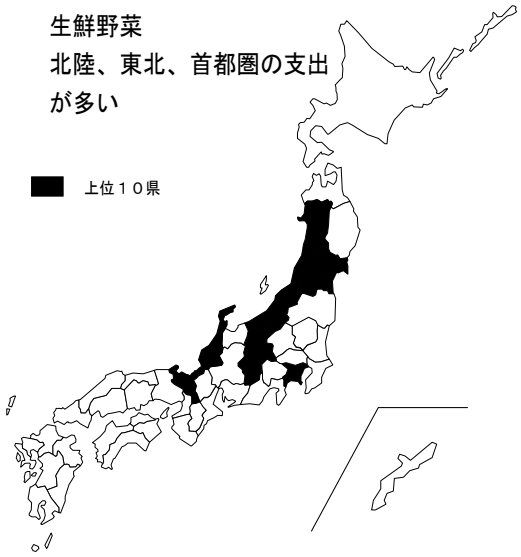
つくだ煮は滋賀県(242 円)を筆頭に福井県(223 円)、京都府(210 円)、大阪府(205 円)など近畿圏に集中している。

(2)果物

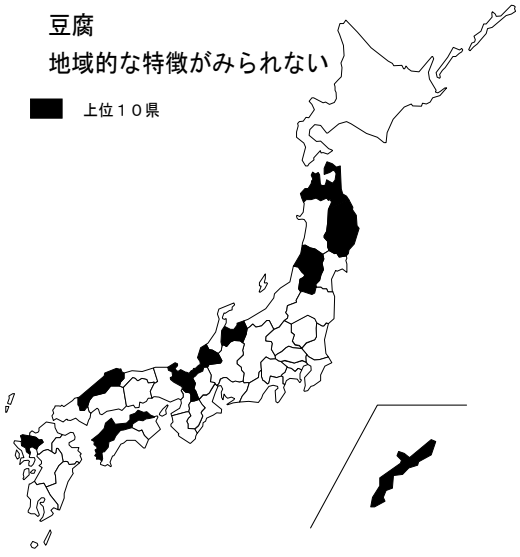
果物は鳥取県(6,641 円)の支出が最も多く、次いで長野県(6,184 円)、山形県(5,712 円)、山梨県(5,626 円)、島根県(5,444 円)の順となっている。鳥取県は梨、長野県はりんご、山形県はさくらんぼ・梨、山梨県はぶどう・桃の代表的な産地であり、果物の栽培が盛んな地域において果物が食されている。

図表6．1－6　都道府県分布（野菜類）

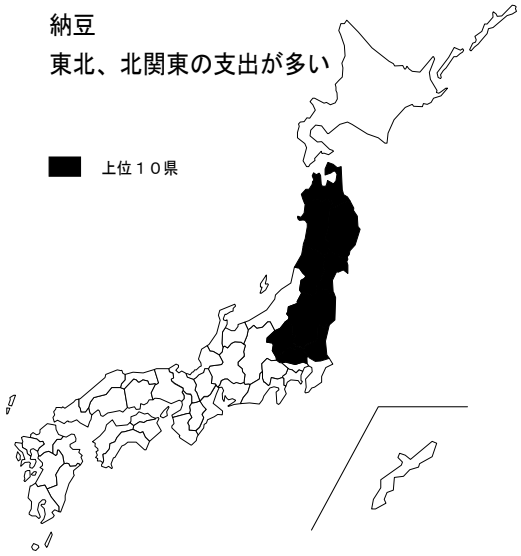
生鮮野菜
北陸、東北、首都圏の支出が多い



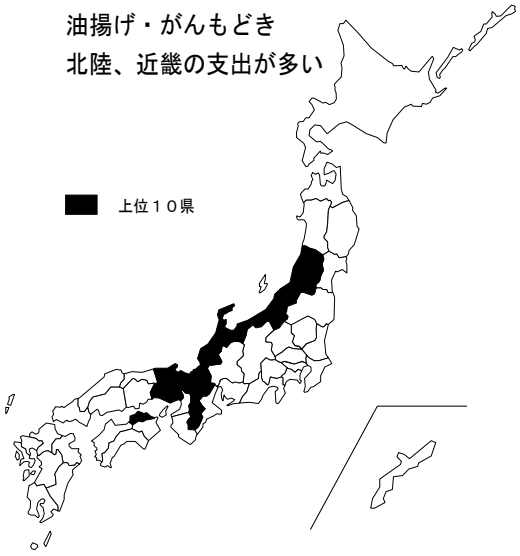
豆腐
地域的な特徴がみられない



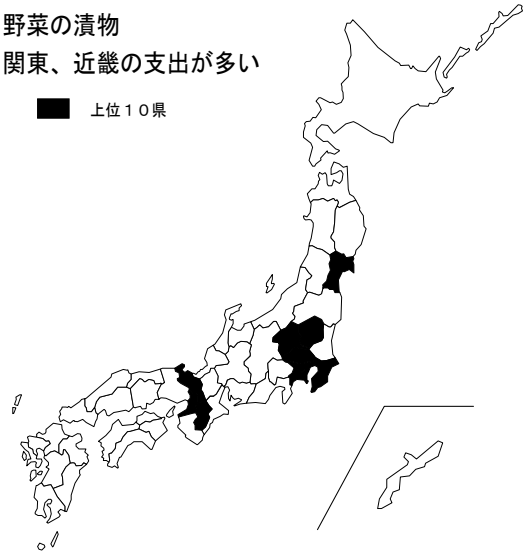
納豆
東北、北関東の支出が多い



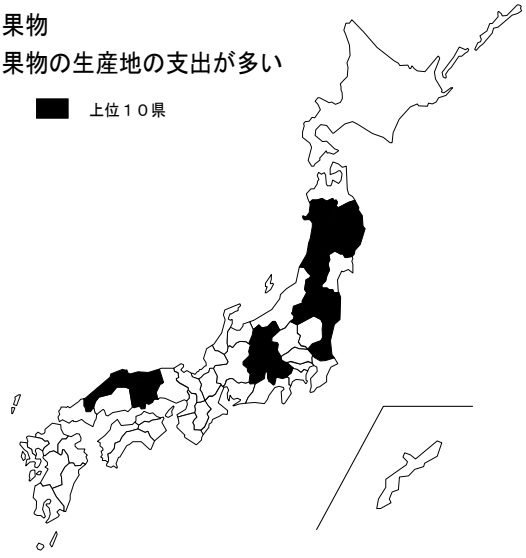
油揚げ・がんもどき
北陸、近畿の支出が多い



野菜の漬物
関東、近畿の支出が多い



果物
果物の生産地の支出が多い



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

6．1．5 油脂･調味料

(1)油脂

食用油は沖縄県(298 円)の支出が最も多く、神奈川県(283 円)、山形県(268 円)、新潟県(267 円)が続く。沖縄を除くと東日本の支出が多い。沖縄ではチャンプルーを代表に炒め物料理が盛んであることから食用油の支出が多い。

マーガリンは兵庫県(91 円)を筆頭に、奈良県(90 円)、京都府(88 円)と近畿、中国の各県の支出が多い。これは近畿がパン食文化であることを反映している。

(2)調味料

食塩は、山形県(118 円)の支出が最も多く、次いで北海道(98 円)、新潟県(97 円)の順となっている。地域別では北海道、東北、北信越など寒冷地に分布している。食塩は、エネルギー代謝として耐寒作用があることから、寒冷地での食塩支出が多い。また発汗による塩分不足を補うために高温地域でも食塩が摂取されている。一方､気候が温暖な近畿の食塩支出額は少ない。このような生理上の必要から、しょうゆやみそなど食塩含有量の多い調味料も、食塩と似かよった分布となっている。

しょうゆは、山形県(451 円)の支出が最も多く、次いで島根県(402 円)、秋田県(341 円)、熊本県(315 円)の順となっている。地域別では東北と九州が突出しており、逆に首都圏の支出は少ない。しょうゆは、全国的に普及している濃口しょうゆと、主に関西で利用されている薄口しょうゆが代表的である。

みそは、熊本県(414 円)の支出が最も多く、次いで佐賀県、宮崎県(ともに 345 円)の支出が多く、九州を中心に分布している。九州は濃厚な味覚を好むことから、濃厚な調味料であるみその支出が多いと推測される。特に熊本県は、からしれんこんなど味噌料理が盛んであるためみその支出が多い。また、新潟県、長野県、岐阜県、静岡県など中部地域でもみその支出が多い。一方、近畿のみそ支出は少ない。みそは､「手前味噌」と言われるように、地域毎に独自の原料や製法を用いていることが特徴であり、九州の麦みそ、中部の豆みそ、近畿の白みそなどがその代表である。

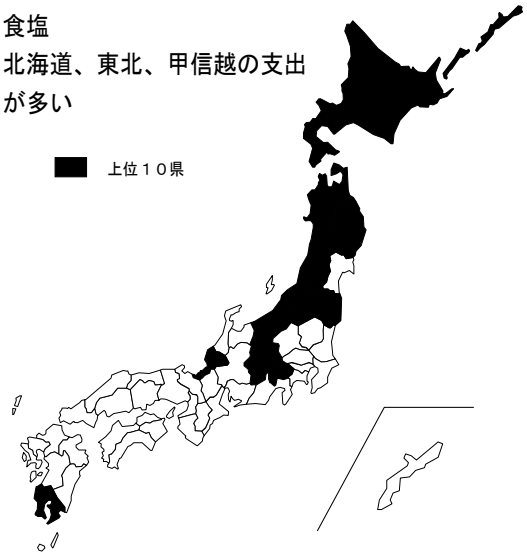
砂糖は、秋田県(299 円)の支出が最も多く、次いで山形県(256 円)、長野県(234 円)の支出が多く、主に東北地方の砂糖消費量が多い。

酢は、高知県(173 円)の支出が最も多く、次いで大阪府(162 円)、奈良県、和歌山県(ともに 155 円)の支出が多い。地域別では近畿、四国において酢の消費が盛んである。近畿、四国は、温暖な気候のため淡白な味を好み、五目寿司など酢を用いた寿司料理が盛んであることが背景にある。

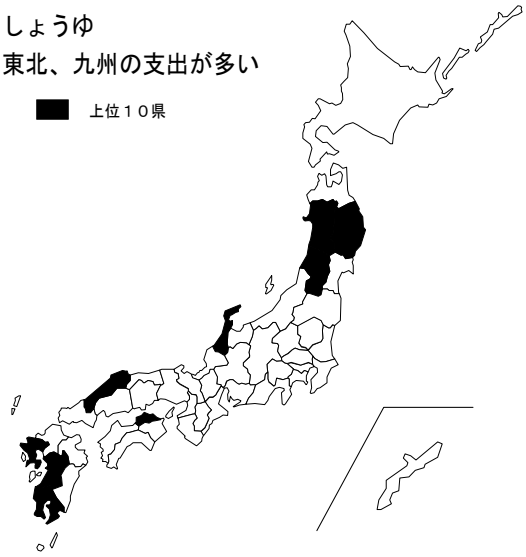
ソース･ケチャップは、兵庫県(169 円)を筆頭にして近畿、中国地域の支出が多い。近畿、中国は､お好み焼きやたこ焼きがよく食べられることから、ソース･ケチャップの支出が多くなったものと考えられる。

図表6．1－7　都道府県分布（調味料）

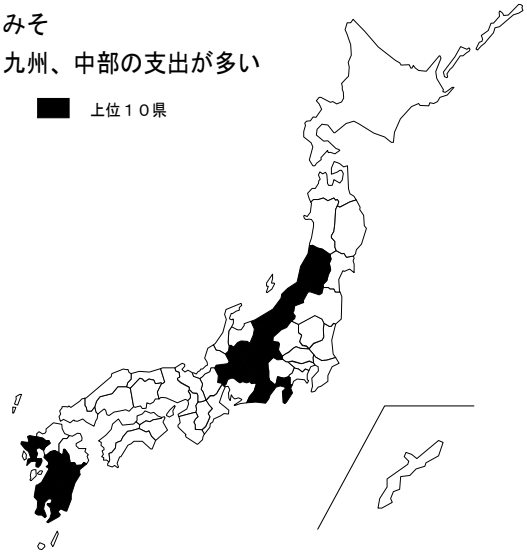
食塩
北海道、東北、甲信越の支出が多い



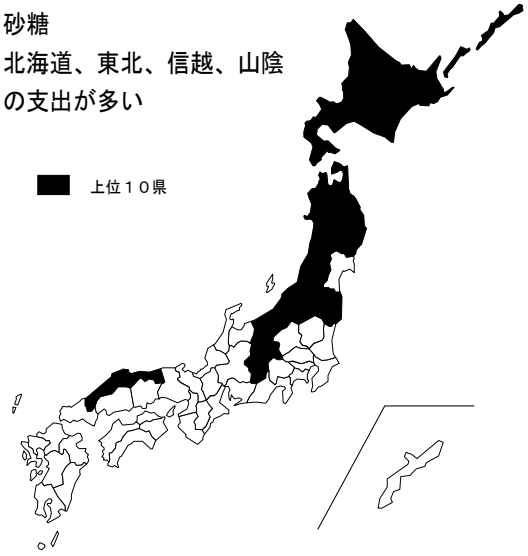
しょうゆ
東北、九州の支出が多い



みそ
九州、中部の支出が多い



砂糖
北海道、東北、信越、山陰の支出が多い



酢
近畿、四国の支出が多い

ソース･ケチャップ
近畿、中国の支出が多い

（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

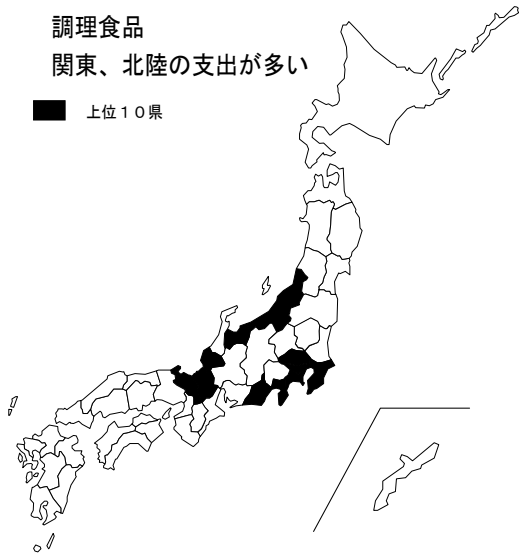
６．１．６ 調理食品

調理食品は、静岡県(8,791 円)の支出が最も多く、次いで福井県(8,772 円)、東京都(8,514 円)、滋賀県(8,389 円)、富山県(8,288 円)の順となっている。関東、北陸などの地域で支出が多いが、これらの地域では勤労者が多く、共働きの割合が高いため、冷凍食品や弁当など調理に手間のかからない食品への支出が増えたものとみられる。

品目別の特徴は以下の通りである。

弁当は、沖縄県(1,750 円)の支出が突出して多く、次いで福岡県(1,315 円)、熊本県(1,312 円)の順となっている。地域別では主に沖縄、九州の支出が多い。

図表６．１－８ 都道府県分布（調理食品）



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

調理パンは、神奈川県(692 円)を筆頭に、東京都(687 円)、千葉県(676 円)など関東、甲信の支出が多い。これは、食パンが近畿を中心として地域に分布しているのとは対照的である。パンの普及は近畿が食パンから、関東が菓子パンから広がっていったものと推測される。

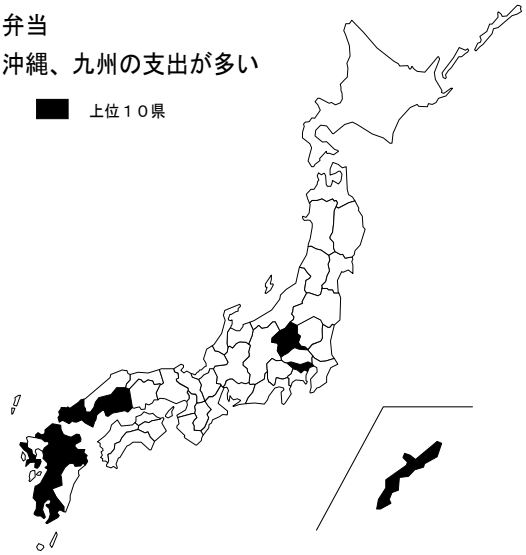
寿司（持ち帰り）は、京都府(1,252 円)を筆頭に、徳島県(1,222 円)など近畿、四国に集中している。加藤[1995]によると、近畿、四国などで五目寿司や押し寿司など寿司料理が盛んな理由は、西日本の米は東日本に比べて味の点で劣っており、具を混ぜたり、酢を入れたりして味わう習慣になったと言われている。

冷凍食品は、佐賀県(671 円)の支出が最も多いなど、主に九州北部の支出が目立っている。

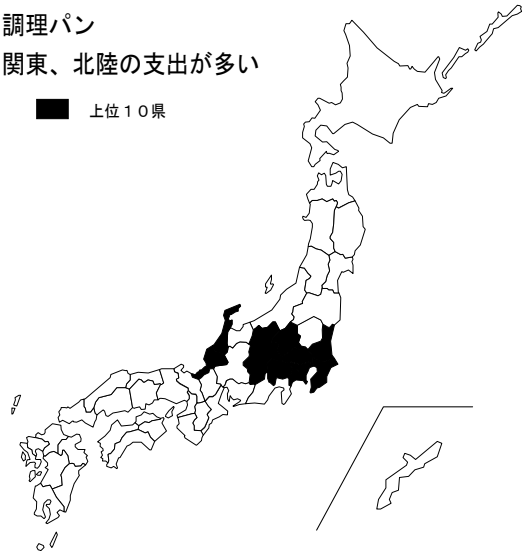
惣菜材料セットは、秋田県(1,244 円)と新潟県(1,135 円)が突出している。

図表6．１－９　都道府県分布（品目別調理食品）

弁当
沖縄、九州の支出が多い

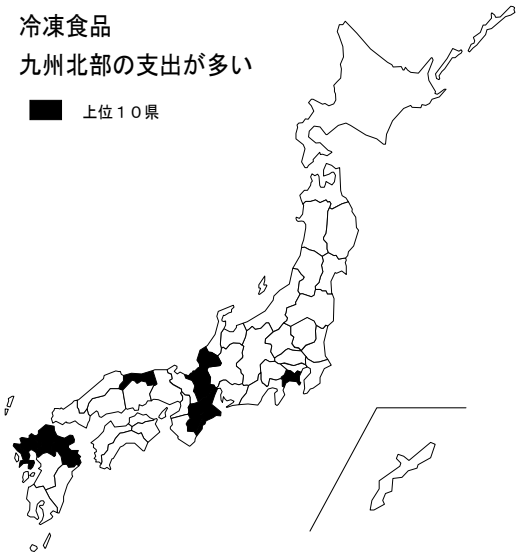


調理パン
関東、北陸の支出が多い



寿司（持ち帰り）
近畿、四国の支出が多い

冷凍食品
九州北部の支出が多い



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

6．1．7　飲料

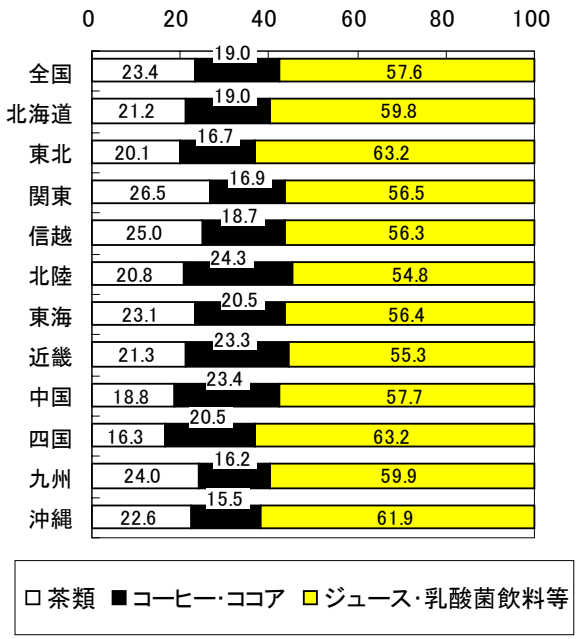
(1)ノンアルコール飲料

緑茶は、東京都(631 円)の支出が最も多く、次いで千葉県(604 円)、埼玉県(596 円)など主に関東地方に分布している。また緑茶の代表的産地である静岡県が全国 4 位(570 円)となっている。九州では長崎県(539 円、全国 6 位)、熊本県(493 円、全国 8 位)の支出が多いのが目立っている。

紅茶は、千葉県(125 円)の支出が最も多く、次いで神奈川県(119 円)、東京都(115 円)など関東地方に分布している。次いで近畿の支出が多く、紅茶は都市部の消費量が多い。

コーヒーは、鳥取県(537 円)の支出が最も多く、次いで京都府(534 円)、大阪府(523 円)など近畿、中国に集中している。ただし缶コーヒーについては、石川県(407 円)を筆頭に北陸の支出が多い。

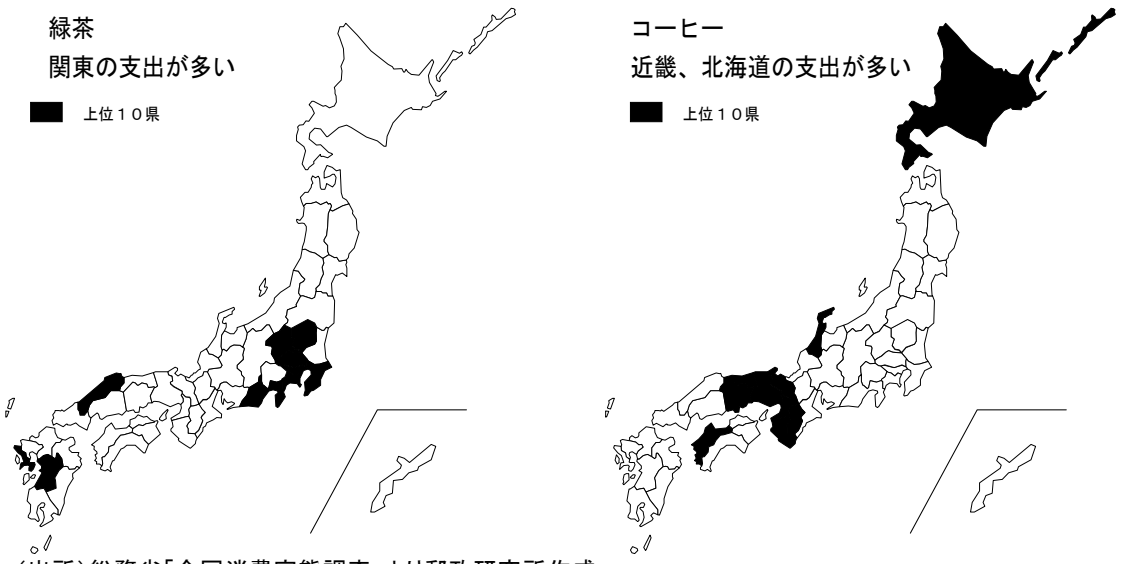
図表6．1－10　清涼飲料支出シェア



(出所)総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

ジュースは、青森県(1,846 円)の支出が最も多く、次いで栃木県(1,544 円)、茨城県(1,457 円)など東北、北陸に集中している。また、西日本では鹿児島県が全国 4 位(1,442 円)となっているのが目立っている。

図表6．1－11　都道府県分布(緑茶、コーヒー)



(出所)総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

炭酸飲料は、沖縄県(282 円)の支出が最も多く、次いで北海道(218 円)、青森県(194 円)となるなど、主に沖縄、北海道、東北の支出が多い。

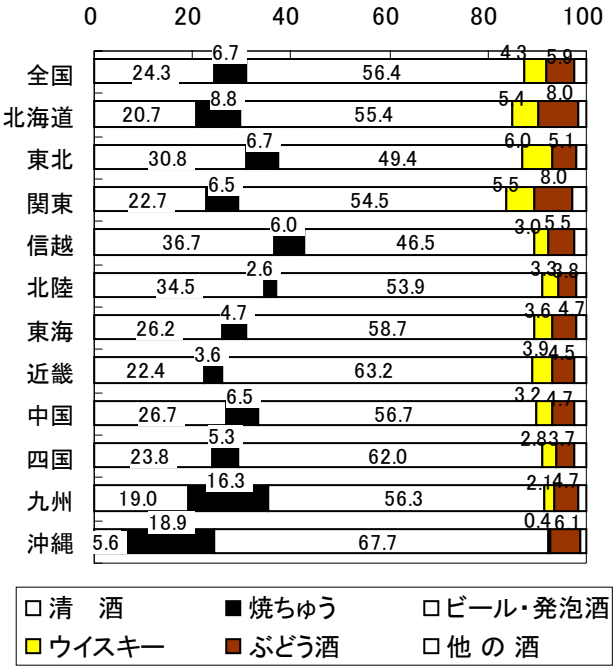
(2)酒類

清酒は、新潟県(2,289 円)の支出が最も多く、次いで秋田県(1,995 円)、富山県(1,650 円)の順となっており、東北、北陸の支出が多い。新潟県は米生産額が全国 1 位、清酒出荷額が全国 3 位と清酒の代表的な産地であることから、清酒の原料である米の生産が盛んな地域で清酒の支出が多い。

ビールは、京都府(2,970 円)の支出が最も多く、次いで大阪府(2,963 円)、高知県(2811 円)の順となっている。全般的に近畿の支出が多いが、それ以外では高知県、秋田県などの支出が目立っている。

焼酎は、宮崎県(1,142 円)の支出が最も多く、次いで鹿児島県(1,072 円)、熊本県(679 円)など九州の支出が多い。特に上位 2 県の支出が突出しており、焼酎文化が地域に根づいている。また、これらの県は焼酎の原料である芋や麦の産地であることも関係しているとみられる。

図表6．1－12　酒類支出シェア



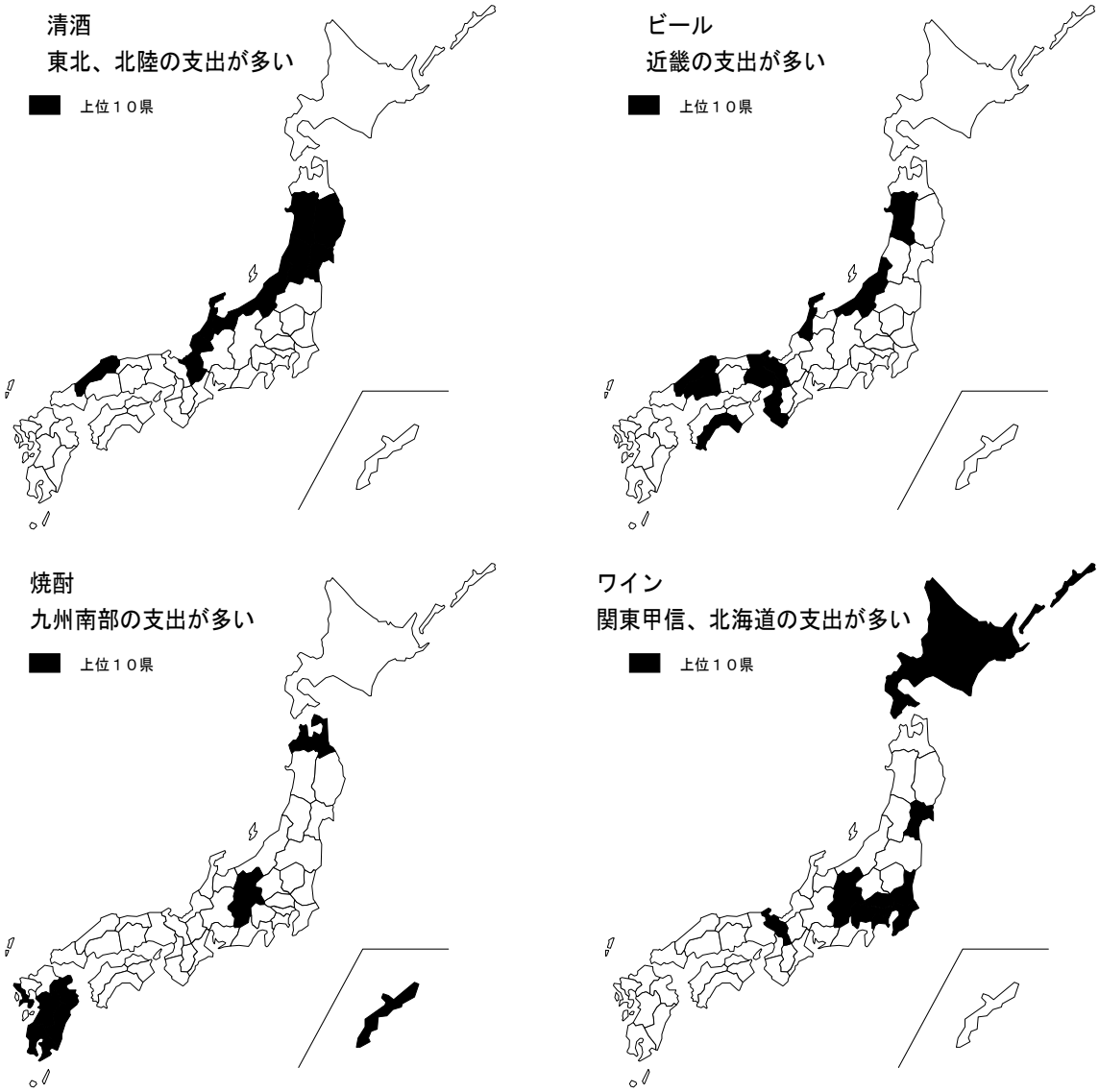
（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成

ウイスキーは、宮城県(412 円)の支出が最も多く、次いで山形県(362 円)、東京都(282 円)の支出が多い。地域別では東北、首都圏での支出が多い。

ワインは、山梨県(394 円)の支出が最も多く、次いで東京都(384 円)、神奈川県(329 円)など関東甲信の支出が多い。特に山梨県はぶどう生産量が全国 1 位であることから、ワインの原料であるぶどうの生産が多い地域の支出が多い。

このように、清酒、焼酎、ワインなど酒類は、全般的に原料の産地により嗜好が異なり、地場性が強い品目である。

図表6．1－13　都道府県分布（酒類）



（出所）総務省「全国消費実態調査」より郵政研究所作成